第一　第二十九軍に對する膺懲戰

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

橋　溝　蘆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一期（蘆溝橋事件より郎坊事件直前迄）

蘆溝橋附近支那軍の不法射撃

昭和十二年七月七日夜我が支那駐屯軍に屬する豐臺駐屯部隊の一部は蘆溝橋（北平西南方約三里）の北方地區で夜間演習中、午後十一時四十分頃蘆溝橋附近の支那兵から突如數十發の射撃を受けたので、直に部隊を集結すると共に、豐臺部隊長に急報した。

豐臺部隊長は直に現地に急行して蘆溝橋の支那部隊に對し其不法射撃に關し交渉中、龍王廟（蘆溝橋北方約千米）附近の支那兵から更に迫撃砲及小銃射撃を受けたので、我軍は已むを得ず之に應戰して龍王廟を占據した。

支那軍蘆溝橋より撤退を約す

爾後我軍は部隊を集結して支那軍を監視しつゝ支那軍の不法行爲に就き嚴重抗議した結果、九日午前三時に至り支那側は遂に我要求を容れ、午前五時を期して蘆溝橋にある部隊を全部永定河右岸地區に撤退することを誓約した。

然るに同時刻に至るも撤退の模樣なく却て兵力を增加し、且監視中の我軍に射撃を加へる等の暴擧に出でたが、我が嚴重な督促により、午後零時十分頃支那兵は漸々撤退を完了した。

十日夕刻衙門口方面から南進した支那兵は、協定を無視して龍王廟を占據し、引續き蘆溝橋附近の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我部隊を攻撃してきたので敢然逆襲に轉じ、之を殲滅して午後九時頃龍王廟を占據した。

我部隊は十一日拂曉龍王廟を撤し主力は蘆溝橋東北方約三粁五里店に集結した。

砲を有する七、八百の支那軍は八寶山及其南方地區に在り、且長辛店及蘆溝橋には兵力を增加して永定河西岸及長辛店高地端に陣地を設備し、其兵力を逐次增加の模樣であつた。

南京政府は中央軍に出動を加へ萬福麟、商震、劉峙等の諸軍は保定以南平漢線滑線に集中し、且南京政府は中央軍に出動を命ずる等事態は益々逼迫せるに鑑み、政府は十一日北支派兵に關し閣議一決し「今次事件は全く支那側の計畫的武力抗日にして斯かる行爲を絶無ならしむるは、東亞平和の維持上極めて緊要にして茲に北支派兵に關し所要の措置をなすに決せるも尙局面不擴大の爲平和的折衝の望を捨てず支那側の速なる反省により事態の圓滿なる解決を希望する」旨聲明した。更に十五日內地から一部の兵力を派遣すべき陸軍省發表があつた。

第二十九軍代表我要求を容る

一方駐屯軍參謀長は極力不擴大の方針を體し北平に於て九日以來冀察主腦部と折衝に努めてゐたが、彼等の態度頗る頑冥なる爲十一日午後決然離平せんとした時、冀察側は我が强硬なる決意に狼狽して急遽態度を豹變し、我要求を承認せる旨傳達して來た。次で午後八時張自忠、張允榮は第二十九軍を代表して我特務機關に對し、謝罪、責任者の處罰、蘆溝橋及龍王廟に駐兵せざること及び抗日行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

爲取締の勵行等、我要求を悉く承諾する旨の文書を提出した。

十八日には宋哲元は香月軍司令官を訪れて陳謝の意を表し、更に十九日夜去る十一日調印した協定實行の爲の具體的事項及本事件を惹起した第三十七師(師長馮治安)を他に移駐せしめる旨を自發的に申出た。然るに依然狀況は緩和せず我が隱忍自重せる態度にも拘らず共挑戰行爲は枚擧に遑なく、十九日には西五里店附近で警戒中の我部隊は、支那兵の不法射擊を受け將校一が負傷するに至つたので、我軍は第二十九軍代表に對し不信行爲を繰返す時は二十日正午以後自衛上獨自の行動を採るべきを通告した。

軍重大通告を手交す

警戒砲擊を行ふ

二十日午後一時に至るや支那軍は八寶山及長辛店附近から我に向ひ砲擊を開始したので豐臺附近の我部隊は之に膺懲的砲擊を加へ夜に入つて中止した。

又第三十七師の撤退狀況は二十二日に亙つて事變發生後北上した團を原駐地に向け出發せしめたのみで、爾後は車輛不足を名として列車を運轉せず、一方三十日來平した參謀次長熊斌の策動により、秦德純、馮治安等の態度は二十四日以來硬化し且北平北方及西北方地區に於ては盛に陣地を補强するので我軍は參謀副長を北平に派し嚴重交渉せしめた。

1368

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二期（郎坊、廣安門事件、北平周邊の膺懲戰）

郎坊事件

二十五日郎坊驛（天津西北方約七十粁）附近に於て我軍用電線に故障を生じたので、我軍は支那側に通告した後、五ノ井部隊掩護の下に通信隊の一部を現地に派遣したが、該隊は午後四時三十分郎坊に到著、同地の支那軍と交渉の上驛内に於て故障修理中、午後十二時十分頃支那軍は突如攻撃して來たので我は寡兵を以て之に應戰した。

次で急派された鯉登部隊主力は二十六日午前六時三十分頃から逐次戰線に加入し、我飛行隊及北平居留民保護の爲北上中の廣部部隊協力の下に午前八時頃支那軍を潰走せしめた。交戰した支那軍は第三十八師（師長張自忠）の第二百二十六團である。

第三十七師の期限附撤退を要求す

前述の如く第三十七師の撤退進捗せず、加ふるに比較的親日と目された張自忠麾下の軍隊との間に郎坊事件を惹起したので軍は二十六日午後三時三十分宋哲元に對し第三十七師を二十八日正午迄永定河以西の地域に撤退、爾後保定方面へ輸送すべく、之が實行を見ざる場合は我軍は獨自の行動を執るべき旨の通告を手交した。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

廣安門事件

居留民の保護の爲廣部部隊は郎坊に於ける戰鬪後豐臺に到り、更に北平城内の兵營に入るべく、通過に關し支那側が既に承諾濟になつてゐる廣安門に午後四時半頃到着した。然るに支那兵は開門を肯んぜず再三交渉の末、午後七時三十分頃門を開いたが、我部隊の約半部を通過せしめた後、突如門を閉鎖して、我を城門の内外に分斷し、手榴彈機關銃等を以て猛射を浴せたので、我部隊は之に應戰した。午前零時過特務機關等の奔走により交渉成立し我部隊は兵營に入つた。

我軍獨自の行動を執るべきを通告す

廣安門に於ける欺瞞的行爲は我軍を侮辱すること甚しく、最早隱忍自重を許さざるに至つたので、軍は獨自の行動に出づるに決し、其旨を二十七日夜十二時宋哲元に通告した。

膺懲戰開始

斯くて二十八日早曉から北平周邊の第二十九軍に對する膺懲戰は開始されたのである。

北平南方地區に於ては、南苑に在る第三十八師の歩兵約四大隊及特科部隊に對し、萱島部隊は東方から、川岸部隊は南方から、河邊部隊は西方から、我飛行隊協力の下に空陸相呼應して猛攻を加へたので、午前八時三十分頃には脆くも北方へ敗走を始めた。

河邊部隊及萱島部隊は、支那軍の退路を東西から挾撃遮斷すべく馬村附近に殺倒して北平に向ひ逃走せんとする支那兵を殆ど殲滅し、川岸部隊は午後三時頃南苑附近の掃蕩を完了した。

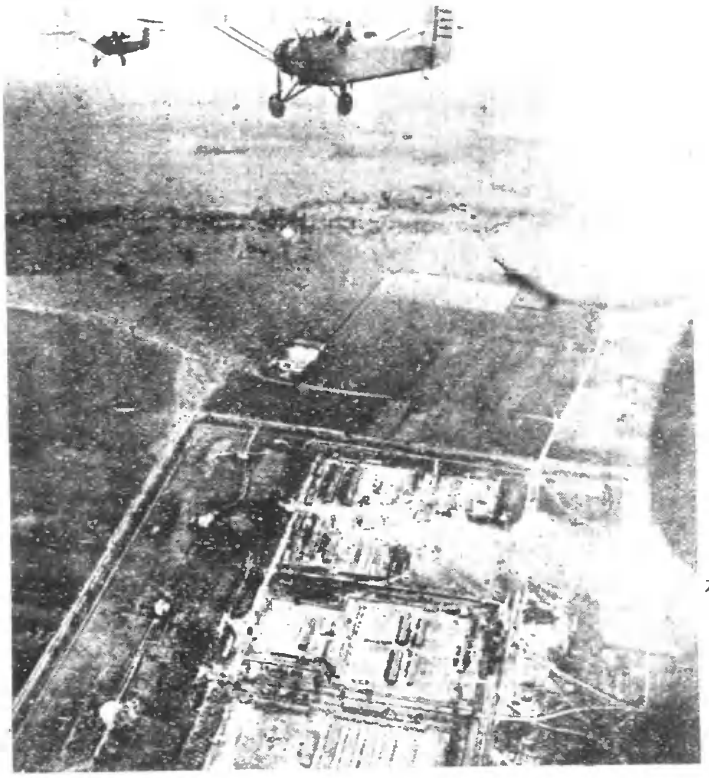
北平北方地區に於ても、酒井、鈴木兩部隊は破竹の勢を以て進擊し、酒井部隊は午前十時三十分に

JYCL
SYCL

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南苑兵營爆撃中の我飛行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



六

隊行飛行の中空爆撃兵苑南

1371
1372

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

は沙河鎮の支那軍を撃破し、鈴木部隊は午後三時清河鎮を攻略して、夕刻には圓明園及西苑北側及西北側地區に達した。

北平城内に於ては二十七日午後迄に在留邦人は交民巷の公使館區域に收容せられたが、數中隊の支那兵に依つて全く包圍せられ、有線電話は不通となり外部との連絡は全く遮斷せられた。

宋哲元の逃亡

宋哲元は二十八日夜半後事を張自忠に託し、秦德純、馮治安等を伴つて保定に向ひ遁走し、城内の第三十七師も亦二十九日拂曉前城内を脱出長辛店方向に退却した。

二十九日には北平附近永定河右岸の殘存部隊を撃滅し、夕刻には酒井部隊は黄村附近に、鈴木部隊は北平西側地區に進出し、河邊部隊は蘆溝橋(苑平城)を占據した。

河邊部隊は更に三十日永定河を越えて午後三時頃長辛店及其西方高地を占據したが敵は遠く南方に退却し良鄕以北には支那兵を認めざるに至つた。

第三期 (天津塘沽方面の戦闘、通州事件、平津地方治安恢復の狀況)

天津方面の戦闘

二十八日夜半天津及通州は殆ど同時に支那兵の襲撃を受けた。

天津に於ては、海光寺兵營、鐘紡工場、東站停車場、糧秣集積所が午前一時頃、飛行場が午前三時

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兵舎監視哨の背後に畑粱高

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

頃、支那兵に襲撃されたが、既に其企圖を察知し嚴重警戒中であつた我守備隊は、東站停車場を除く各所に於ては飛行隊の爆撃と相俟つて、拂曉迄には何れも支那軍に多大の損害を與へて撃退するを得た。

唯東站停車場は寡兵を以て優勢なる敵歩砲兵の攻撃を受くるに至り奮戰を續けてゐた。支那兵は市内各所に蠢動して日本軍及我が居留地を攻撃するので我軍は、今迄差控へてゐた市内に於ける支那軍の主要占據地點を二十九日午後二時三十分頃から爆撃するの已むなきに至り、地上部隊の砲撃と相俟つて支那軍を震駭せしめた。

我守備隊増援部隊と共に支那街を掃蕩し、我が飛行隊は引續き支那軍の巣窟たる諸建築物を爆撃したので支那軍は天津南方へ退却を開始し、三十一日には市内の掃蕩を殆ど完了、治安は漸次恢復せられた。

天津を攪亂した支那軍は第三十八師の第二百二十八團及獨立第二十六旅第六百七十八團及保安隊の有力な一部であつた。

塘沽方面の戰鬪

大沽にあつた支那部隊も二十八日午後三時頃白河を航行中の我舟艇を射撃し、又翌二十九日朝塘沽守備隊を射撃したので、我守備隊は海軍と協力して同地の支那軍を攻撃、午後一時三十分頃同地を占

1375

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通州事件

據し且支那砲艦一隻を鹵獲した。

通州は冀東防共自治政府の所在地であるが同地の治安維持に任じてゐた保安隊中教導總隊第一第二總隊及第二十九軍の敗殘兵等約三千は、第二十九軍の煽動に乗せられ支那軍戰勝のデマを盲信し二十八日夜半突如兵變を起した。

我通州守備隊は二十九日午前三時頃約二千の保安隊の夜襲を受けてより、二日に亘り、約百の寡兵を以て能く之を拒止するを得た。

我飛行隊は叛亂部隊を爆撃し萱島部隊主力は三十日午後四時二十分通州到著、直に市内の掃蕩を行ひ治安の恢復維持に任じた。一方我が特務機關は二十九日午前三時頃支那兵の襲撃を受け、細木機關長以下九名壯烈なる戰死を遂ぐるに至つた。

通州の居留民は約三百八十名で何等不穩の兆がなかつたので市内各所に散在してゐた爲叛亂兵の恣に襲撃する所となり其大部は慘殺せられた。其鬼畜に等しき殘虐行爲は正に神人共に許さざる所にして痛恨の極である。

支那軍の掃蕩及武裝解除

奈良部隊は三十日午前十時四十分頃北平西北方地區に於て逃走中の冀東保安隊三百名を攻撃して屍體約百五十を遺棄して潰走せしめ小銃九十輕機關銃十二等を鹵獲した。八月二日午前十時頃我が飛行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

武裝解除をされた支那兵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機は燕郊鎮（通州東方約八粁）に集結してゐた殘亂保安隊並第二十九軍敗殘兵約二百を爆擊した。

鈴木部隊は八月二日北苑を占領してゐた獨立第三十九旅の約三千二百名の武裝を解除し、北平城內に在つた第百三十二師第二十七旅に對しても武裝解除を行つた。

斯くして第二十九軍の潰走並に其殘存部隊の掃蕩により平津地方の治安は逐次恢復された。

八月八日正午我部隊は北平に入城し、安寧は愈〻確保せられ、籠城して居た居留民も九日それ〴〵自宅に歸つた。

治安維持會の成立

支那側に於ても自發的に治安維持會を組織し、七月三十日北平に、八月一日天津に於て各〻其成立を見たが、更に八月一日には河北省各縣治安維持會聯合會が結成された。

冀東政府の再建

冀東政府は一時潰滅したが、前長官殷汝耕に代つて池宗墨は九日唐山に於て新機構と新陣容とを以て業務を開始した。

冀察政務委員會の解消

冀察政務委員會は委員長たる宋哲元の逃亡後、餘喘を保ちつゝあつたが、北支人の北支たらしめんとする一般民衆の氣勢には抗すべくもなく、二十日遂に解消して了つた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp